

【発行】

島根県立三刀屋高等学校

〒690-2404

雲南市三刀屋町三刀屋 912-2

TEL：0854-45-2721

FAX：0854-45-5630



第145号

令和7年

3月21日発行

# 蒼雲

昭和100年

三高102年

校長 本間達也

三高開校100周年のメモリアルイヤーである2024（令和6）年も終わり、2025（令和7）年も3か月が経過しようとしています。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動全般にわたりご理解とご協力をいただきありがとうございます。2025（令和7）年は、1926（昭和元）年から100年目となる年です。三高開校は1924（大正13）年ですので、三高は開校から102年目の年となります。つまり三高は昭和（+平成+令和）の年月すべてを見守ってきたといえます。不易流行時代を超えても変わらないもの、変えていく必要のあるもの、三高も、時代の移り変わりとともに変化したものが、変化せずに受け継がれているものがあります。100年も経てば当然時代も大きく変わりますが、三高生がより実感できる変化としては、木造校舎から鉄筋コンクリート校舎へ、普通科から総合学科へ、学ランからブレザーへ等々でしょう。もちろん挙げればきりがありません。

一方、変化せずに受け継がれているものとしては、開校以来の校訓「誠実剛健・礼儀規律・勤労勉勵」を基盤とした教育理念がその代表といえるでしょう。開校当初から存続しているものといえば、ユリノキ（百合の木）と蒼雲館があります。現在では、ともに「三高のシンボル」的存在になっています。ユリノキは「三刀屋高等学校五十年史」によれば、開校年からあったとされています。第一期生からずっと三高生を見守り、ともに成長してきた存在ともいえます。ユリノキは、実は日本各地で街路樹として植栽されていて、私を知っている限りでも北海道大

学構内、東京都の迎賓館前や国立博物館前、京都市のメインストリート四条通、県内では島根大学構内、松江市総合運動公園野球場前などで見かけることができます。三高生の皆さん、全国各地にある三高シンボルツリーを探してみてください。きっと高校時代を思い出し懐かしい気持ちになれると思います。

もう一つの三高のシンボリック存在である蒼雲館は、開校年から5年後の1929（昭和4）年に建設されました。正面玄関に向かい合うように建っているピンクの建物です。「ピンクハウス」と呼ぶ人もいるとかいいたいか。蒼雲館は、当時の天皇陛下の御大典（天皇御即位の式典）記念の「記念文庫」として保護者・教職員・地元有志の拠金により建設され、以来本校生徒の学習活動の中心的施設として利用されてきました。その後、1968（昭和43）年以降の校舎全面改築にあたり図書館が管理棟2階に移転したため、記念文庫も取り壊すことになりましたが、旧校舎で学んだ卒業生の「木造校舎がすべて改築され、失うことはたえがたい」という思いもあり、再生・保存することとなりました。また、これを機に「記念館」と改称されました。

創立60周年記念事業では、100人を収容できる集会室も完備された鉄筋コンクリート3階建てへの全面改築が計画されました。しかし、資金難あるいは現状保存を要望する声もあり、倉庫となる部分を一部改築したものの外観はそのままとする改築・保存という形に変更となりました。そして、全校生徒に新たな名称を募集し、選考の結果「蒼雲館」と改称されました。このような経緯で命名された「蒼雲館」という呼称は、第36期（1984（昭和59）年3月卒業）以前の卒業生の皆様にはなじみの薄いものかもしれません。「蒼雲」とは、青雲の志（徳を磨いて、立派な人物になろうとする心）の「青雲」をイメージしたものでなかったかと当時を知る方はおっしゃっていました。また、玄関

に掲げてある額の文字は蒼雲にちなんで蒼い色で塗られていたとのことでした。その後、蒼雲館は2004（平成16）年の総合学科改編に伴う総合学科棟の建設により、それまで位置していたところからやや西側（現在の位置）に移転工事が行われ現在に至っています。ちなみに、この学校だよりも開校90周年・総合学科移行10周年の年に発行された第83号（2014（平成26）年4月9日発行）から「蒼雲」と命名されています。蒼雲館は、外観だけではなく内部にも三高の歴史を感じさせるものが多数収蔵されています。旧制中学校第一期生からのクラス集合写真や野球部の甲子園出場時の記録写真や記念品等、100年の三高の歴史が凝縮されています。また、今回新たに開校100周年記念コーナーも新設し、ゆかりのある品々を展示しています。「記念文庫」「記念館」「蒼雲館」と名称を変えながらも開校当初から三高生を見守ってくれている蒼雲館は、単なる建造物としてではなく三高同窓生の絆を深める大切なコンテンツとなっています。



ユリノキと蒼雲館



ユリノキの花



蒼雲館



蒼雲館内の収蔵品



開校100周年記念コーナー



御大典記念絵巻書(昭和4年5月16日)

## 男子ソフトボール部

岡藤 結斗

私たち男子ソフトボール部は3月に行われる選抜大会に出場することになりました。

選抜大会ではベスト8を目標に日々練習をしています。ベスト8という目標は島根のチームとしてはまだ達成したことがなく、とても厳しく高い目標だと思います。しかし練習を重ねていき、一人一人が全国で戦えるようにレベルアップしていきたいと思います。

今は練習試合でも負けることが多く、チームとしてもまだまだレベルは低いです。ピッチャーを中心に守り勝てるチームになり目標を達成したいと思います。

応援よろしくお願いします。



## JRC部

岡崎 奏

『梅のまち三刀屋』としてにぎわっていた三刀屋ですが、今では梅の木の手入れが行き届かなかつたり、多くの方が『梅のまち』であることさえ知りません。また途上国の児童労働にも心が痛みます。どちらもいてもたってもいられず、「誰にでもできることがある！」を合言葉に、幅広い世代と一緒に体験しながら考える“放置された梅とフェアトレード品で梅カップケーキの開発・試食・交流会、梅 de レシピコンテスト・レシピ本発行等”を企画しています。毎回子どもからお年寄りまで多数参加してください、「実は梅の衰退が気になっていたよ」「三刀屋の梅が世界へつながるんだね」と誇りをもってくださり具体的な行動につながってきています。

全国ボランティアアワード入賞、全国ボランティアスピリットブロック賞・ボランティアスピリット賞、島根県高文連研究発表優秀賞、NHK、日本農業新聞等々、顕彰と報道はすべて協力して下さる地域の皆様のおかげだと部員一同から感謝しています。

他にも色々楽しく活動し、救急員等の資格もとりました。詳しくは学校HP等で



## 剣道部

谷山 結香

私たち剣道部女子は12月21、22日出雲市のだんだんトマトアリーナで行われた新人選手権大会に出場しました。予選リーグで大接戦の末、強豪大田高校を破り決勝リーグに上がりました。決勝リーグでは飯南高校を3勝2分けて破り、目標としていたベスト4を達成することができました。女子チームのみんなと話し合い稽古に対する姿勢を高め、悲願であった中国新人大会の団体出場権を獲得しました。また、練士七段の田本監督を始め、地域の剣道家の先生方に日々、心技体一致して向上するようにご指導いただき、部員一同感謝しています。中国大会では島根県代表として三刀屋高校の名前を汚さぬよう、気魄一閃の精神で精進し、自分たちの力を最大限に発揮したいと思います。



## 女子ソフトボール部

須田 栞渚

女子ソフトボール部は、チームとして掲げる全国制覇という目標はもちろん、個々での目標も明確に掲げ、全員が認識している状態で今年の春、長崎県大村市で行われる全国選抜大会に向けて毎日部活動に励んでいます。

トレーニングやミーティングを重ね、昨年の選抜大会やインターハイ、中国大会での悔しさをバネに、一人ひとりが県代表という自覚と自信を持ち、のびのびとしたプレーと気迫で相手を圧倒し、確実に勝利を掴みとります。また、応援して下さる保護者の方々、地域の皆さんに結果で恩返しができるように、チーム一丸となって精一杯思いっきりプレーします。



## 声優AWARD 松下 響

私は11月17日に東京都池袋で行われた第13回国際声優コンテスト「声優魂」本大会に出場し、優秀賞を受賞しました。本大会出場が決まってからの3ヶ月間は発声や滑舌などの基礎を磨くことを基本として練習に励んでいました。大会当日は22名(2名欠場)の中、アフレコ、掛け合いセリフの二つの課題をグループ審査して頂きました。私は周りのレベルの高さに圧倒されていましたが、自分らしさを忘れず笑顔で堂々と大好きな演技を全力で楽しむことができました。私自身、まだこの賞に見合う実力を持っていないと感じているので、これからも精進していきます。こうして賞をいただき応援して下さった皆様にご報告できて嬉しく思います。応援ありがとうございました。





# 学びの発表会

# 雲南式探究の 発表会

# 発表会



学びの発表会



探究アワード



令和六年度の探究プログラムも締めくくりの時期を迎え、一年生、二年生とも自分たちの学びをもとに発表会を行いました。

一年生は、1月27日(月)に、10月以降取り組んできた「雲南式探究」の学びの発表会を各クラスで行いました。これは、これまでの自分の取組を振り返り、学んだ内容を5分にまとめてクラスの人たちの前で発表するもので、一年生にとっては、「総合的な探究の時間」で行う最初のプレゼンテーションの場になります。各自が、プレゼン資料づくりから原稿作成、リハーサルなどをすべて一人で行って発表に臨みました。

また2月27日(木)には、「産業社会と人間」の時間で取り組んだ、「探究基礎」の発表も行いました。一年生は、「自然科学探究」と「文学探究」のいずれかを選び、与えられた課題に個人又はグループで取り組みながら、自分なりの答えを見出そうと頑張りました。この発表も、「雲南式探究」の発表同様の形式で行い、生徒一人ひとりが各自で準備をしました。これらの機会を通じて一年生は探究のスキルや発表のスキルなどを身につけていきます。

そして、二年生は、2月18日(火)に開催した「探究アワード」において、こ

れまでグループで取り組んできた「ローカルテーマ探究」の成果を発表しました。「ローカルテーマ探究」は、地域の方にアドバイザーとなってもらい、ゼミ形式で地域課題の解決に向けて取り組む探究活動です。今年度は、地域のアドバイザーに加え、新たに専門的な知見を持った方にも関わってもらい、より広い視点で生徒の探究が進むようにしました。「探究アワード」当日は、30名を超えるアドバイザーの皆さんにお越しいただき、一年生も観客として参加するとともに発表後に積極的な質問を行って、活発な発表会にすることができました。閉会式では、参加いただいた有識者の方々から、探究活動の取組内容や、発表場面での一年生の積極的に質問する姿勢などについて、多くのお褒めの言葉をいただきました。

三刀屋高校は総合学科高校として、県内各校に先んじて探究学習に取り組んできました。今年度からは、DXハイスクール事業や「総合的な探究の時間」の質向上実践研究事業などの文科省の事業を受託し、さらに学びの質のブラッシュアップに注力しています。これらの事業を活用しながら、二年生の発表を見た一年生が骨太な探究活動に取り組む、一年後、さらに参加者を唸らせる発表をしてくれることを期待しています。

# 後期生徒会長として

生徒会長 小村 直

私は今年度後期生徒会長となり、初めて生徒をまとめる立場になりました。これまで一度も生徒会執行部に入ったことがなかったので、正直自分がやっていけるのかという不安はありましたが、執行部の役員や、先生方の協力のもと、ゴミ拾いや挨拶運動、生徒会誌作成などを行うことが出来ました。役員が多く、さらに一人一人が責任感が強く積極的に行動してくれる人ばかりで、多くの行事も無事に実施できています。今、よりよい学校を目指して楽しく活動ができるのも、協力してくれる生徒の皆さんや先生方のおかげだと感謝しています。

私は「町に愛される、町が誇れる学校」を目標に活動しています。町のごみ拾いをした際にも、町の方から「ありがとう！助かるわ」と感謝の言葉を頂きました。私たちは日々町の方のサポートがあるからこそ楽しく充実した学校生活を送れています。大好きなこの学校と町が更に明るくなるためにもより一層力をいれて生徒会活動に励んでいきます。「チーム三高」を掲げて全員で盛り上げていきましょう！



## 学 校 行 事



卒業式



開校100周年記念碑除幕式



防災教育



早稲田大学留学生交流事業

